

## 【藤田医科大学岡崎医療センターにおける個人防護具着用について】

現在、当施設では医療従事者が新型コロナウイルス感染者に接触する際および感染者が滞在するエリアに入る際、感染から身を守り、外に感染を外に広げないために個人防護具として、手袋・ガウン・N95 マスク・アイシールド付きマスク、キャップを着用しております。これらの個人防護具は新型コロナウイルスに対して国際的に推奨されている感染予防策です。これまでに、当施設で感染予防策の一環として用いているガウンに関するお問い合わせを多数頂きましたので回答させていただきます。

ガウンは、病原体を保有する感染者および汚染された周囲環境面に、医療従事者の体及び洋服が直接接着するのを防ぐために着用します。当施設で採用しているガウンは接触リスクの高い腕・体幹の前面/側面を覆っており、国内各地で新型コロナウイルス感染患者の対応にあたっている他の医療機関と相違ないものを用いております。ガウンの代わりに、防護服（頭部から足先まで覆う防護スーツ）が用いられることもありますが、当施設では検討を重ねた結果、ガウンを用いることとしました。

防護服は全身を覆っており一見とても安全にみえますが、ガウンや防護服の「着脱」の煩雑さが関わってきます。ガウンや防護服の脱衣の際には、汚染されているガウンまたは防護服の外側が手・体・洋服に触れないよう脱ぐことが非常に重要です。誤って汚染されている外側に触れてしまうと、その部位が汚染される可能性があります。ガウンの場合、背中部位を引き裂くことで比較的簡単に脱ぐことができます。一方で防護服の脱衣は手順が複雑であることから、脱衣の際に医療従事者や本来ならば清潔であるべき環境が汚染されるリスクがあります。医療機関での感染対策を主導する環境感染学会も、新型コロナウイルスの感染予防には防護服の使用は必須でないとしています。

頻回に個人防護具の着脱が必要となる医療従事者において、正しい着脱のコンプライアンス（＝順守率）が保たれるよう、熟考の上で現在の感染予防策および個人防護具を選択していることを御理解いただければ幸いです。



新型コロナウイルス感染症患者に対する診療時の個人防護具（写真は国立国際医療研究センターより御提供頂きました）。岡崎医療センターでも同様の対応をしています。